



2024年12月期 決算説明資料

2025年 2月 12日

 **立川ブラインド工業株式会社**

(東京証券取引所 プライム市場 証券コード 7989)

- 
1. 2024年12月期 決算概況
 2. 2023年～2025年
中期経営計画の進捗状況
 3. 企業価値向上の取組み

Appendix



1. 2024年12月期 決算概況

売上高 前年比 + 102百万円

営業利益 前年比 + 314百万円

セグメント	売上前年比	当期業績
室内外装品 関連事業	 +1.5%	新設住宅着工戸数は戸建てを中心に減少 主力製品の価格改定や運賃収受の見直しにより増収 間仕切、電動製品、調光ができるファブリック製品等 成長製品の売上が拡大
駐車場装置 関連事業	 △3.6%	パズルタワーの新設物件が減少 利益水準の高い改修工事や保守売上が堅調に推移し、 増益を確保
減速機 関連事業	 △7.8%	工作機械需要の回復が鈍化 新規サーボモータ事業が売上を伸ばしたが、 汎用製品やオーダー製品の売上が減少

連結業績

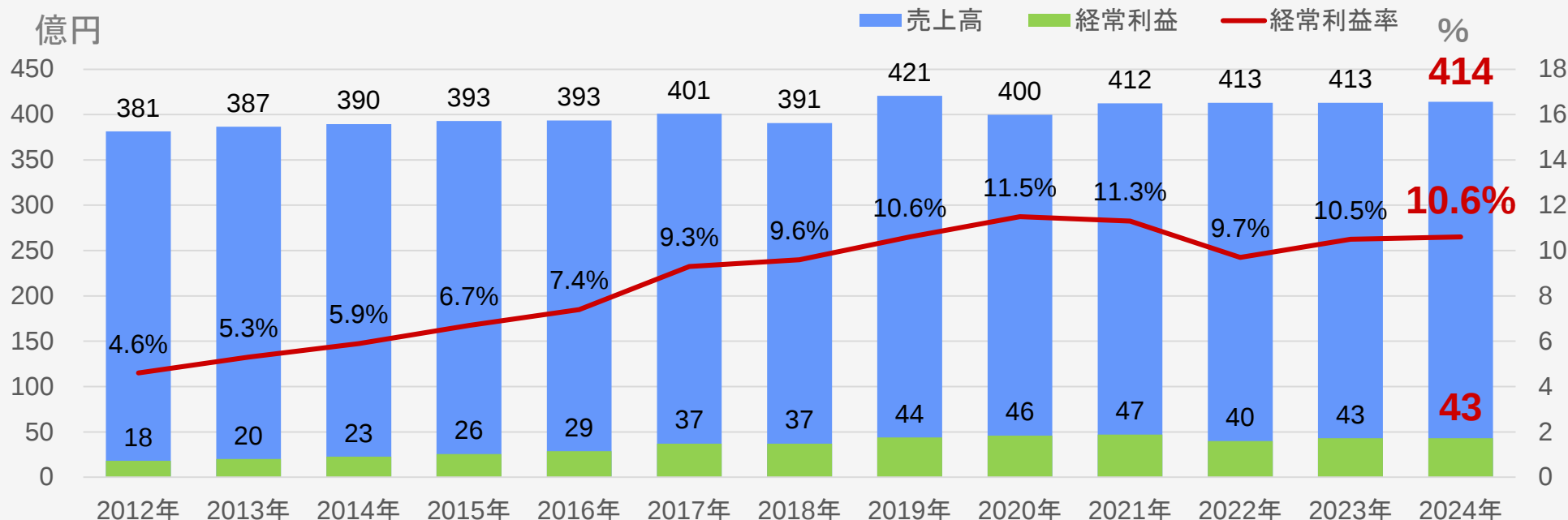
(単位：百万円)

	2024年度				2023年度	
	金額	構成比	前年比	予算比	金額	構成比
売上高	41,407	100.0%	100.2%	96.7%	41,305	100.0%
売上総利益	17,113	41.3%	101.4%	97.6%	16,873	40.8%
販売費及び一般管理費	12,752	30.8%	99.4%	95.5%	12,826	31.1%
営業利益	4,361	10.5%	107.8%	104.3%	4,046	9.8%
経常利益	4,376	10.6%	101.1%	100.4%	4,327	10.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,802	6.8%	103.5%	101.5%	2,708	6.6%

トピックス

- ・売上高は、室内外装品関連事業が増収。駐車場装置関連事業、減速機関連事業が減収。
- ・売上総利益率は0.5ポイント上昇（原材料高騰の影響を販売単価の改定により補い、利益率が向上）
- ・各段階利益は前年利益を上回り、目標に対しても達成。
- ・特別損益では、利用頻度が低くなった福利厚生施設の減損損失を計上したが、保有株式の売却益により補填。

連結業績推移



トピックス

【売上高】

- ・新設住宅着工戸数が減少するなか、販売台数が減少傾向で推移するも、高付加価値製品の拡販や、製品の販売価格を順次見直したことで、販売単価が上昇し、売上をキープ。

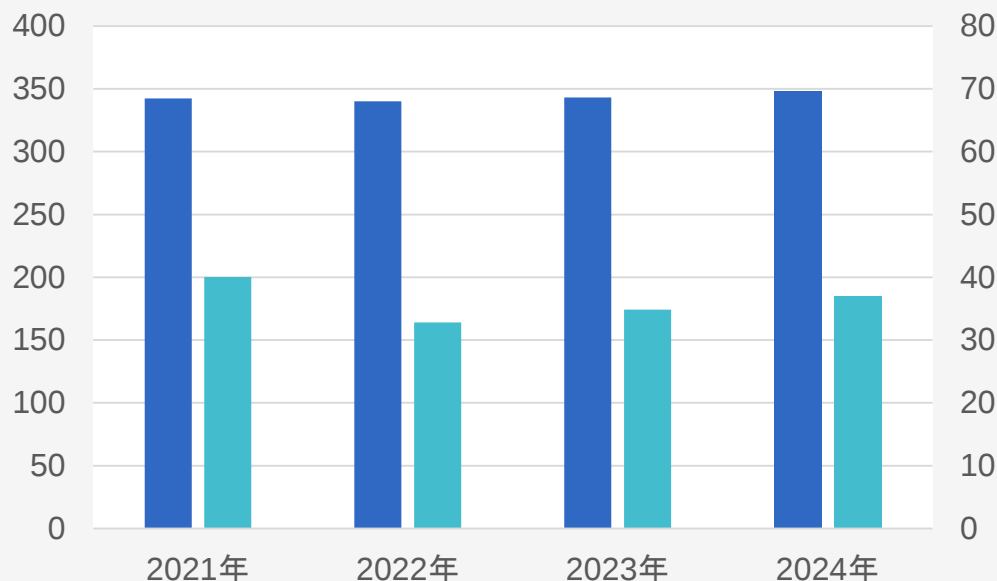
【経常利益】

- ・従業員に対する処遇改善を継続して実施したことで人件費が増加するも、価格改定等の影響により、利益率が上昇。

室内外装品関連事業

売上: 億円

利益: 億円



売上高

前年比

348億35百万円

101.5%

営業利益

前年比

37億01百万円

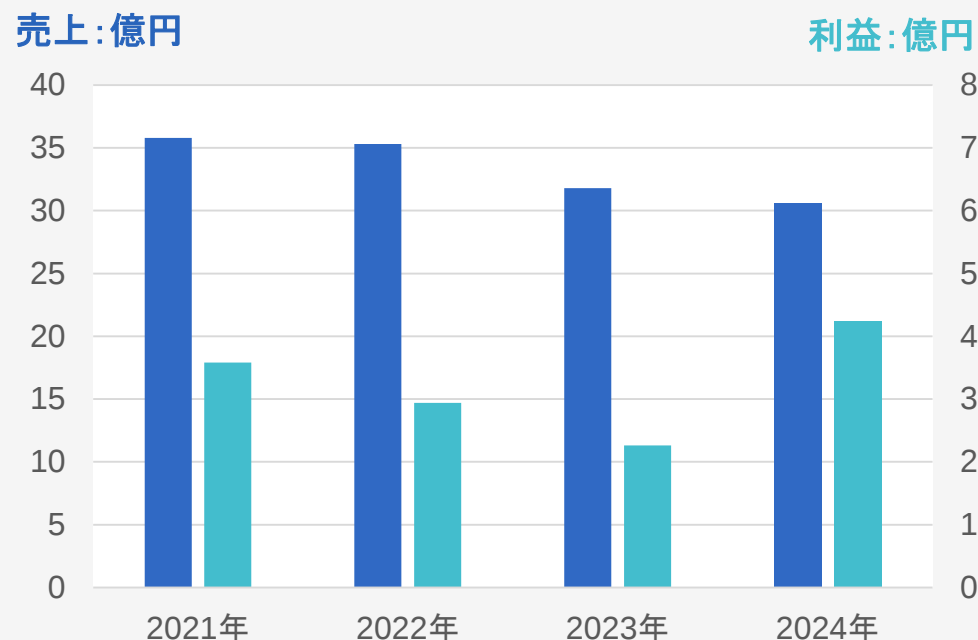
106.2%



2024年度概況

- － 新設住宅着工戸数減少の影響を受け、ブラインドの販売台数が減少。
- ＋ 主力製品の販売価格の適正化や、運賃収受の見直しにより、売上と利益を確保。
- ＋ 新製品「エアレ」を始めとする調光ファブリックシリーズが市場のニーズと合致し、新たな需要を創造。

駐車場装置関連事業



売上高	前年比
30億65百万円	96.4%
営業利益	前年比
4億25百万円	187.6%



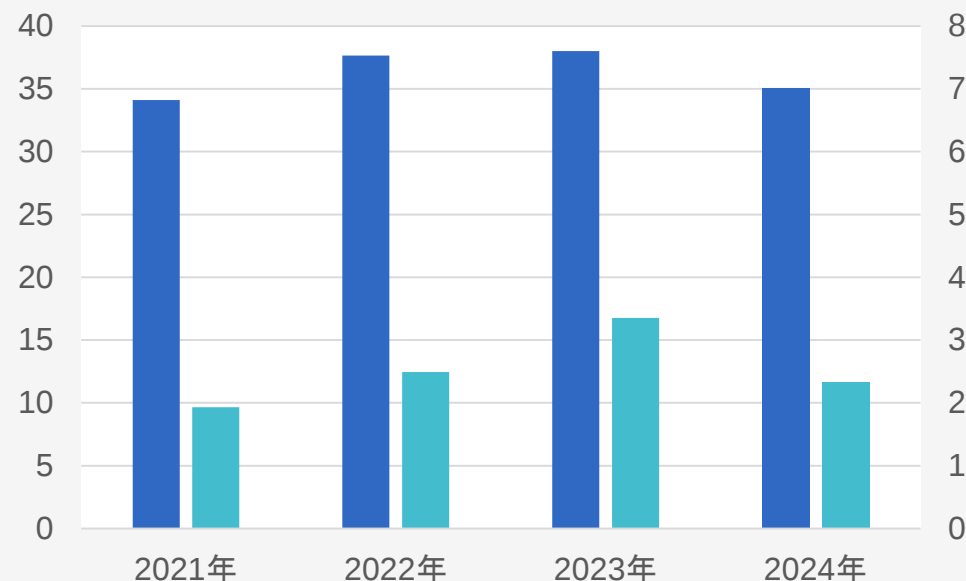
2024年度概況

- 新設パズルタワーの完工物件数が減少。（2,3年前のコロナ禍に受注が減少）
- ＋ 利益水準の高い改修工事や保守売上の獲得に努め、増益を確保。

減速機関連事業

売上: 億円

利益: 億円



売上高

前年比

35億 6百万円

92.2%

営業利益

前年比

2億34百万円

69.8%



2024年度概況

- 販売先の在庫調整の影響により、汎用製品・オーダー製品の売上が減少。
- + サーボモータ事業を2024年1月に譲受、生産体制を整備し、販売活動を開始。

2024年12月期 連結貸借対照表

単位：百万円

項目	2023年 12月	2024年 12月	増減
流動資産	39,110	39,563	+ 452
固定資産	24,031	24,279	+ 247
流動負債	9,963	7,916	△2,046
固定負債	2,736	2,937	+ 200
純資産	50,442	52,988	+ 2,545
総資産	63,142	63,842	+ 700

自己資本比率 72.9% 83.0% + 10.1%

主な増減要因

- 棚卸資産 + 481
- 投資有価証券 + 285
保有株式の株価上昇
- 仕入債務（支払条件の変更）
 - ・ 支払手形及び買掛金 △584
 - ・ 電子記録債務 △1,256
- 自己資本 + 6,969
 - ・ 利益剰余金 + 2,098
（利益計上、配当）
 - ・ 資本剰余金 + 3,052
 - ・ 自己株式 + 1,238
（富士変速機 完全子会社化）
- 非支配株主持分 △4,423
（富士変速機 完全子会社化）

単位：百万円

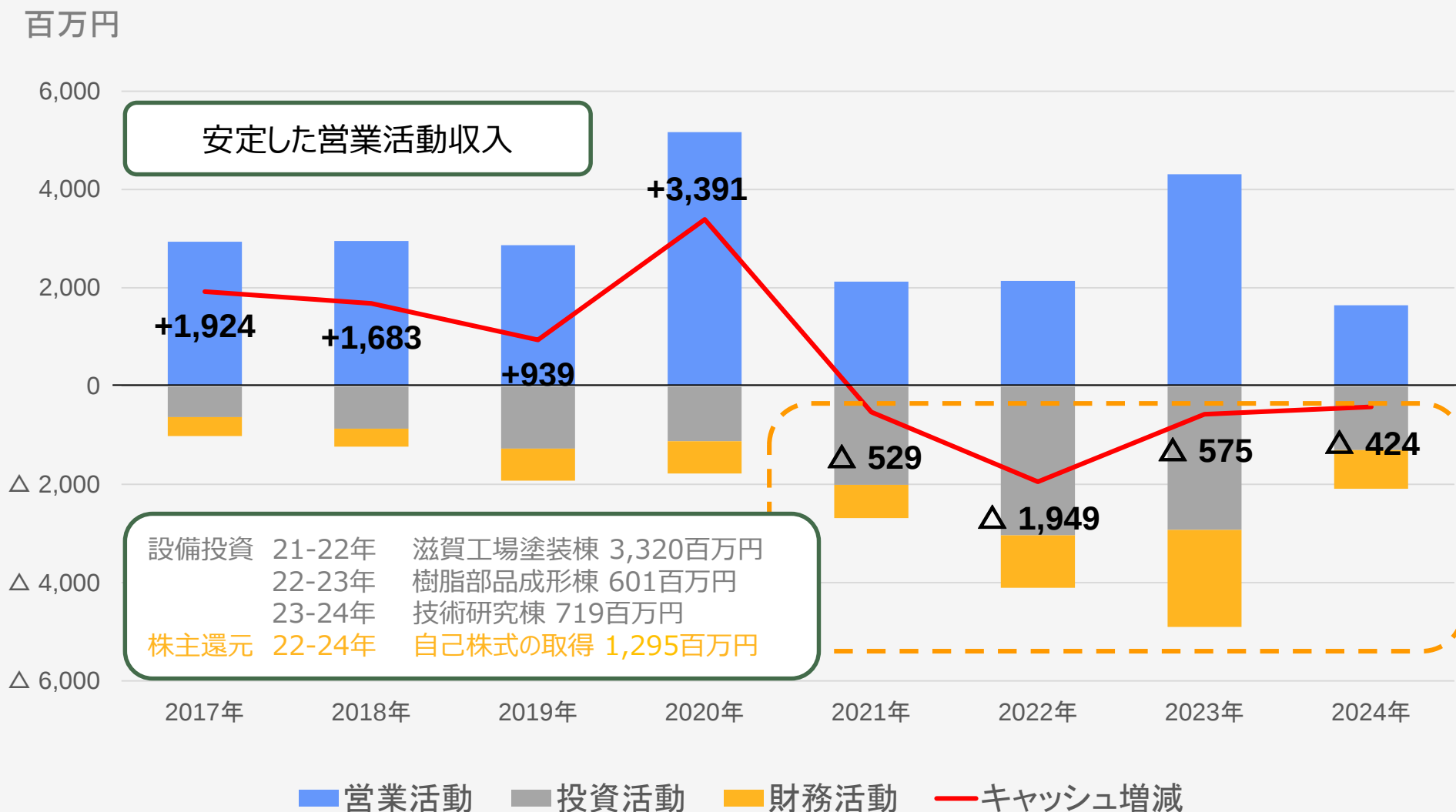
項目	2023年 12月	2024年 12月
営業活動による キャッシュ・フロー	+4,314	+1,643
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,928	△ 1,305
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,978	△ 786
現金及び現金同等物の 増減額(前年同期比)	△575	△ 424
現金及び現金同等物の 期末残高	15,402	14,977

主な増減要因

- 営業活動
 - ・ 税金等調整前利益+4,333(前年並)
 - ・ 仕入債務の減少△1,828
 - ・ 法人税、消費税の支払△1,214
- 投資活動
 - ・ 有形固定資産の取得△1,077
技術研究棟建設費の支払
フォレティアリニューアル
自然塗料塗装設備・金型購入
 - ・ 投資有価証券の売却+581
 - ・ 定期預金への預入れ△500
- 財務活動
 - ・ 配当金の支払△743
1株46円(前年から10円増配)

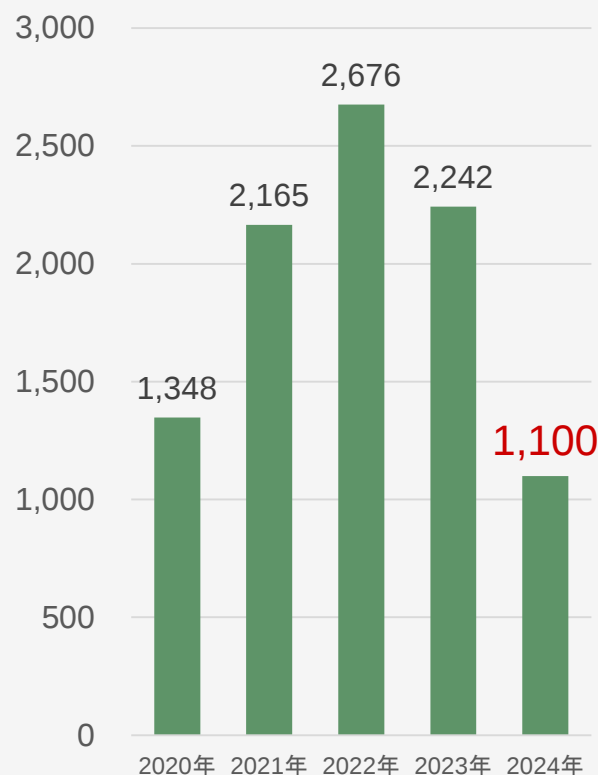
キャッシュ・フローの過年度推移

2021年以降設備投資や株主還元積極的に現預金を活用 営業CF < (投資CF + 財務CF)



①設備投資額

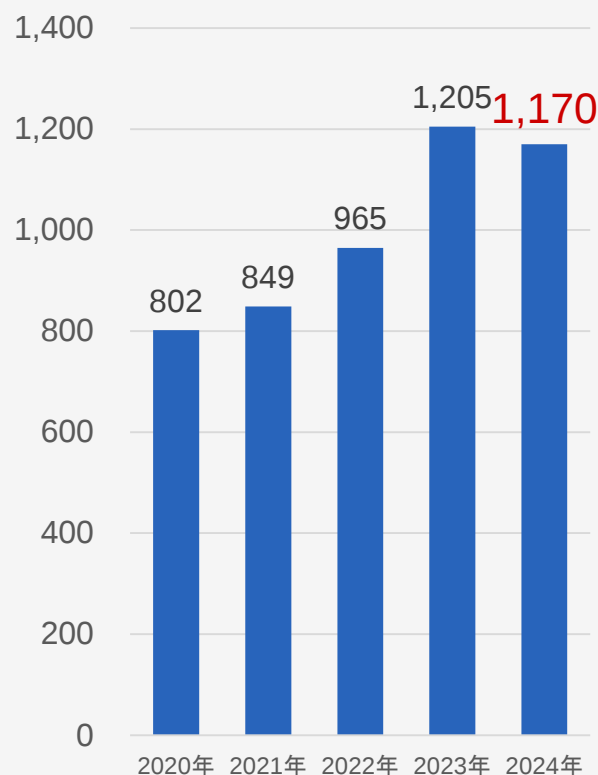
(単位：百万円)



将来的な成長に向け、
積極的な設備投資を実施
滋賀工場の塗装設備、技術研究棟の建設
事業拠点移転候補地の購入 等

②減価償却費

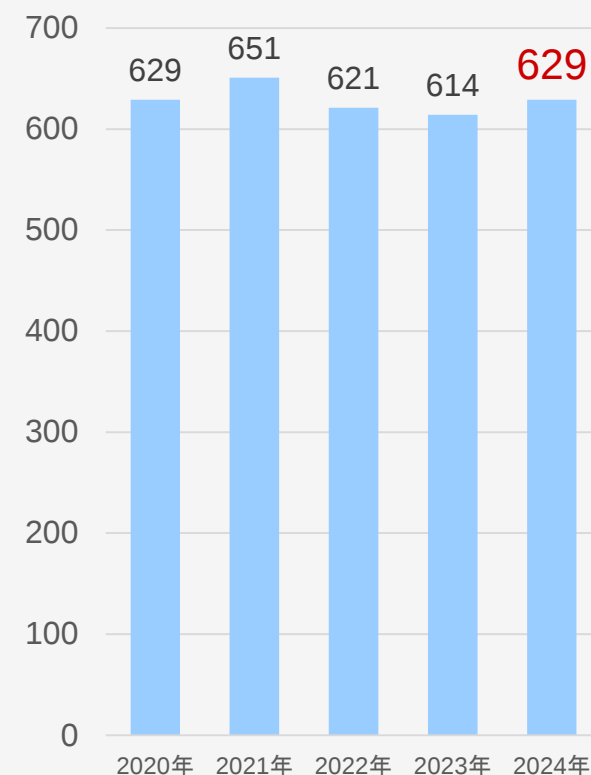
(単位：百万円)



2022年11月の滋賀工場
塗装棟の稼働により増加

③研究開発費

(単位：百万円)



製品の開発スピードと質の向上
を目的とし、技術研究棟を建設
2024年10月稼働



2. 2023年～2025年 中期経営計画の進捗状況

ビジョン

タチカワビジョン2025 ～継続と進化～

ものづくりとマーケティング

経営基盤の強化

サステナビリティへの取組み

戦略

室内外装品関連事業

- ・マーケティングの継続・進化
- ・技術革新
- ・生産体制の強化
- ・戦略に必要な人材の確保と育成
- ・計画的な事業拠点整備

減速機関連事業

- ・個別品の差別化戦略
- ・カタログ品の販売強化

駐車場装置関連事業

- ・新規物件獲得強化
- ・付加価値提案による改造・改修物件の獲得

サステナビリティ

E (環境)

- ・温室効果ガス排出量の削減
- ・環境配慮型設計の推進

S (社会)

- ・人にやさしい快適な環境づくり
- ・健康経営の推進
- ・社員の多様性拡大

G (ガバナンス)

- ・コーポレートガバナンス強化
- ・リスクマネジメントの強化
- ・コンプライアンスの徹底

1 ものづくりとマーケティング

主な活動

- 主な新製品・リニューアル
 - ・調光タテ型ブラインド エアレ 発売
 - ・木製ブラインド フォレティア デザインブラインド アフタービート リニューアル
 - ・間仕切 プレイス・プレイススウィング リニューアル
 - ・調光ロールスクリーン ルミエ 生地ラインナップ拡充 等
- タチカワブラインド×ダイキン コラボ展示
- 技術研究棟 稼働（2024年10月）
- 生産拠点の生産品目見直し 等

課題

- 電動製品売上拡大に向けたラインナップ強化
- リサイクル素材等の環境負荷低減に繋がる製品拡充
- リフォーム・リニューアル市場の攻略
- デジタルマーケティングの対応強化
- 技術研究棟を活用した新素材・新技術・新製法の開発
- 札幌製作所移転プロジェクトにおける建設費高騰や工期遅延等の対応

今後の取組み

- バッテリー仕様/RFリモコン対応 電動製品の拡充
- リフォーム・リニューアル市場に向けた製品拡充
- デジタルを活用した販促強化とデジタルツール充実化
- リアルとデジタルの融合におけるマーケティング体制の最適化
- 技術研究棟における実証実験、評価、開発のスピード向上に向けた施策実施
- 札幌製作所移転プロジェクトの完遂 等
- 環境負荷低減に繋がる素材活用 継続検討

●新製品・リニューアル（成長製品群）

スマートインテリアシェード ホームタコス



ホームタコス フォレティアエグゼ50

- ・2024年は、ホームタコス フォレティア・アフタービートを発売。
また、製品本体にバッテリーを内蔵した「バッテリー仕様」をオプションとして新たに発売。リフォーム等で窓の近くにコンセントがない場合でも使用が可能。
- ・通信環境の変化に伴う、IoTの急速な普及を背景に電動製品の需要が拡大傾向にあり、家庭向け電動製品ホームタコスを成長製品と位置づけ開発に注力。

調光ファブリック製品



調光タテ型ブラインド エアレ



調光ロールスクリーン ルミエ

- ・市場において調光ができるファブリック製品の需要が拡大傾向。
- ・2024年は、調光タテ型ブラインド「エアレ」を新発売した他、調光ロールスクリーン「ルミエ」生地ラインナップを拡充し、いずれも売上が拡大傾向。
- ・生産拠点においても、調光ファブリック製品をはじめとした成長製品の生産体制整備を計画中。

2 経営基盤の強化

主な活動

- 人材の確保と育成
 - ・ベースアップ等の処遇改善や昇給制度の改定
 - ・契約社員、パートタイマー、再雇用社員の賃金改定
 - ・入社3年目研修、中途採用者研修等の実施
 - ・キャリアロードマップの策定 等
- 健康経営に向けた活動
 - ・有給休暇 取得平均日数 12.0日/人
 - ・時間単位の有給休暇取得制度の導入
 - ・健康経営宣言の公開（2024年7月） 等
- 事業拠点整備計画に基づく活動
 - ・利用率の低い福利厚生施設等の保有資産売却
 - ・事業所移転に向けた土地購入、移転先の検討 等

課題

- 専門職・高卒採用の競争激化
- 社員の年齢構成の是正
- 社員育成に向けた投資拡大
- 女性管理職・経営補佐職の不足
- 健康経営に向けた活動の推進
- 事業所移転先の探索長期化
- 事業成長に向けたアライアンスの検討 等

今後の取組み

- 地域限定採用の継続と競争激化への対応
- 中途採用比率の向上による年齢構成の是正継続
- 処遇改善の継続と定着率の向上
- 研修プログラムの見直し、充実化
- 早期昇格、早期登用による幹部候補の育成
- 女性管理職の増加に向けた施策実行
- 健康経営優良法人認定取得に向けた活動推進
- 中長期的観点に基づく事業所移転の推進 等

3 サステナビリティへの取り組み

主な活動

- GHG排出量の削減（Scope1、2）
 - ・ 2024年1月～10月累計 4,688t-CO2(前年比89.5%)
- 資源の有効活用
 - ・ リサイクル率 2024年12月累計 98.8%(前年 98.4%)
 - ・ 廃棄物総排出量 2024年12月累計 680.3 t (前年比94.4%)
- 環境配慮型製品の導入
 - ・ 木製ブラインド「フォレティア」
国産材スラット、自然塗料スラット等
- コーポレートガバナンスの強化
 - ・ 社外取締役 1名の招聘
 - ・ 富士変速機 完全子会社化および親子上場解消

課題

- GHG排出量の削減
 - ・ 賃借物件の照明LED化の推進
 - ・ 営業車両の低燃費車切替への対応
- 資源の有効活用
 - ・ リサイクル材の活用
 - ・ 材料ロス削減と廃棄物リサイクルの推進
- コーポレート・ガバナンスの強化
 - ・ 人権方針の明確化
 - ・ BCP更新等のリスクマネジメント向上
 - ・ 取締役会の実効性評価の実施と開示

今後の取り組み

- 安心・安全・快適に、健康と環境を加えた製品の企画開発の継続的推進
- 定期的なロス低減活動による廃棄物削減
- 人権方針の策定と開示
- 災害エリアごとの具体的な対応を含めたBCP更新 等

4 減速機関連事業・駐車場装置関連事業

主な活動

- バッテリーACサーボモータ 発売（2024年4月）
- 個別品モータの開発・展開
 - ・ 無人搬送機用、食品機械用、養殖用、階段昇降用 等
- パズルタワー ビヨンドを軸とした高層パズルタワー販促
- 駐車場装置における付加価値提案、収益確保に向けた製品開発

課題

- 工作機械市場、半導体業界の低迷
- 保守契約物件における大型改修等の物件確保

今後の取組み

- 完全子会社化によるグループシナジーを活かした新規チャネル開拓と代理店強化
- カタログ品のバリエーション拡大と個別品開発の推進
- くし歯式立体駐車場のブランドイメージ構築によるスペックイン拡大
- ロイヤル顧客へのホテル・再開発・高層マンションの中期的受注獲得
- 駐車場装置における付加価値提案に向けた製品開発の継続



中期経営計画 連結業績目標の進捗状況

(単位：億円)

	2024年12月期 通期			2025年12月期 通期		中期経営計画 最終年度目標
	実 績	前年比	予算比	業績予想	前年比	業績目標
売上高	414.1	100.2%	96.7%	428.0	103.4%	445
室内外装品事業	348.4	101.5%	97.9%	359.8	103.3%	371
減速機事業	35.1	92.2%	87.7%	37.5	106.9%	41
駐車場事業	30.7	96.4%	95.8%	30.7	100.2%	33
営業利益	43.6	107.8%	104.3%	44.0	100.9%	44
経常利益	43.8	101.1%	100.4%	46.0	105.1%	46
当期純利益	28.0	103.5%	101.5%	29.0	103.5%	29

【業績進捗】

- ・ 2024年度は、建設コストの増加等により住宅市況の落ち込みがあったが、価格改定等の効果により増収増益を確保。
- ・ 2025年度は、中期経営計画の最終年度。
売上は中期経営計画未達ながらも、更なる価格改定等により収益力を改善し、各利益目標は達成の見通し。
また、将来的な事業領域の拡大についても、検討を継続。

投資内容	投資目的・効果	総投資額	進捗状況	
			当初計画	現時点
札幌製作所移転	- 生産能力拡大 - 製造・物流拠点の統合による顧客対応力、業務効率強化 - 老朽化対策	25.5億円	2025年5月	2027年6月 (竣工予定)
技術研究棟	- 製品開発スピード・質の向上 - 新技術・新素材・新製法等の新たな技術開発への取り組み強化 - 環境に配慮した製品開発の強化 - 製品の提案機会及び機能性訴求の強化	7.2億円	2024年6月	2024年10月 (稼働中)
新成形棟 (立川機工)	- 生産設備・機能の集約化による生産性向上、品質改善 - 外注部品の内製化によるコストダウンとグループサプライチェーンの強化	5.8億円	2023年4月	2023年4月 (稼働中)
サーボモータ事業譲受 (富士変速機)	生産・物流現場の自動化需要の取り込みによる減速機事業拡大	2.0億円	2024年1月	2024年1月 (稼働中)

- ・製品開発力の強化と新しい技術開発を目的とした、技術研究棟が2024年10月に稼働。
- ・その他、グループ子会社である立川機工では新成形棟が稼働、富士変速機では減速機事業拡大を目的としたサーボモータ事業の譲受を実施。
- ・札幌製作所移転は、材料や人件費等の建設コスト高騰等の影響により竣工時期を2027年6月（予定）に変更。

技術研究棟

概要

竣 工	2024年9月
投 資 額	7.2億円
用 途	新規研究開発・実証試験拠点

研究・開発拠点の集約と高度な研究・評価設備を活用した開発スピードと質向上

4階建の施設内には、恒温恒湿や遮光性などを測定できる多様な試験装置を備え、実際の設置環境に即した製品評価により、開発スピードと質を向上。

建築物の省エネやウェルビーイングに貢献する製品や新技術、新素材、新製法等の研究開発を推進。



新成形棟

概要

竣 工	2023年3月
投 資 額	5.8億円
用 途	樹脂部品の成型、その他製品の生産

生産ラインの集約による生産性向上とグループサプライチェーンの強化

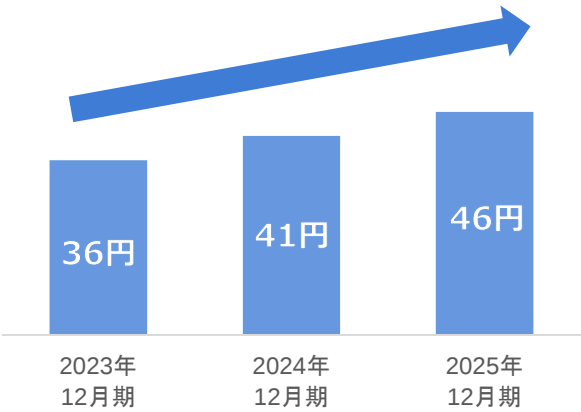
場内に点在していた生産ラインの集約・動線改善により生産性向上や品質改善が期待されるほか、新規生産設備の導入による生産品目の拡大と一部外注していた部品の内製化によるコストダウン・グループ内での安定供給確保により、グループサプライチェーンを強化。



累進配当の継続

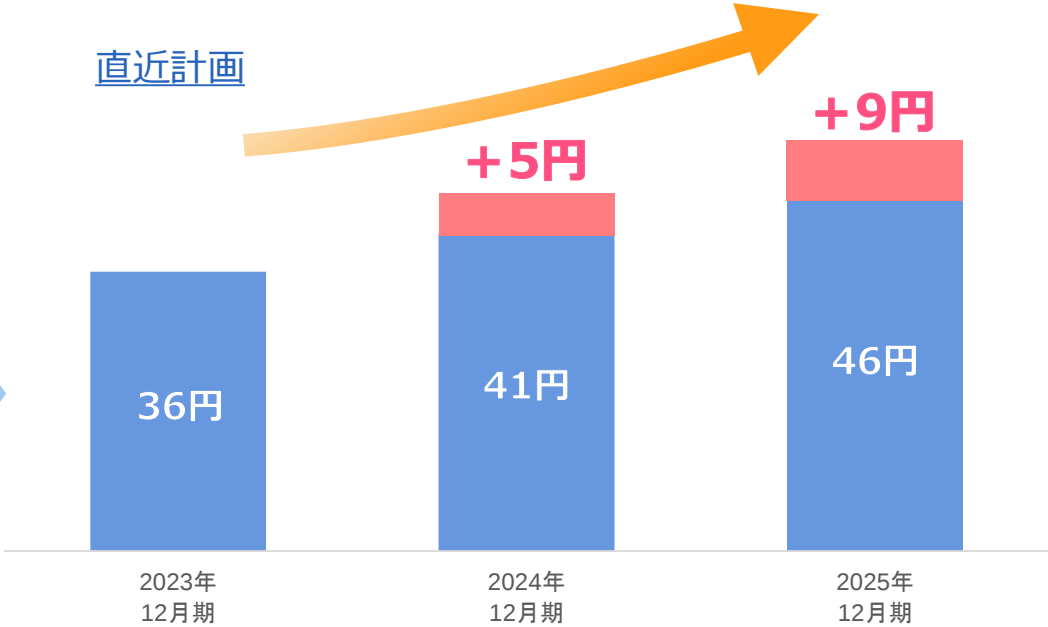
- ・ 総還元性向50%以上の継続的な実現に向けて、株主還元を強化。
- ・ 累進配当方針の下、増配ペースを引上げ。

中期経営計画 公表時



	2023年 12月期	2024年 12月期	2025年 12月期
中期経営計画	36円	41円	46円
配当性向	25.3%	27.6%	30.1%

直近計画



	2023年 12月期	2024年 12月期	2025年 12月期
直近計画	36円	46円	55円
配当性向	25.1%	31.0%	38.1%
総還元性向	55.3%	36.8%	-

- ・ 2023年から2025年までの連結営業キャッシュイン120億円を原資に、株主還元と成長投資を強化
- ・ 成長投資枠を59億円（当初46億円）、株主還元を40億円（当初28億円）に拡大。

最新投資計画 (2023-2025)		主な投資内容	2023-2025年 3ヶ年期間	総投資額	完了時期
営業CF 120億円 以上	維持投資 21億円	・ 既存事業継続の為の必要投資			
	成長投資 59億円	・ 札幌製作所移転	13.1億円	25.5億円	2027年竣工予定
		・ 成長製品群の生産体制整備 （間仕切、ファブリック製品生産棟建設）	2.7億円	40.0億円	2025年 ～2028年計画
		・ 広島支店新設	4.7億円	5.5億円	2026年竣工予定
		・ 技術研究棟新設	7.2億円	7.2億円	2024年10月
		・ 関東支店新設	0.9億円	2.1億円	2023年5月
		・ 新成形棟（立川機工）	3.3億円	5.8億円	2023年4月
		・ サーボモータ事業 譲受	2.0億円	2.0億円	2024年1月
		・ 事業領域拡大とアライアンス推進	10.0億円	(今後更なる増加を検討)	
	株主還元 40億円	・ 累進配当継続 ・ 機動的な自己株式の取得	40.0億円	今後も累進配当継続	



3. 企業価値向上の取組み

PBR 0.51倍 1倍超の早期実現

ROE 5.7% (△0.3%)
8%の早期実現

- ・ 昨年は収益性を改善させたが、資産・資本の効率性指標が低下したことにより前年より減少
- ・ 貸借対照表の適正化を進めていくことが課題

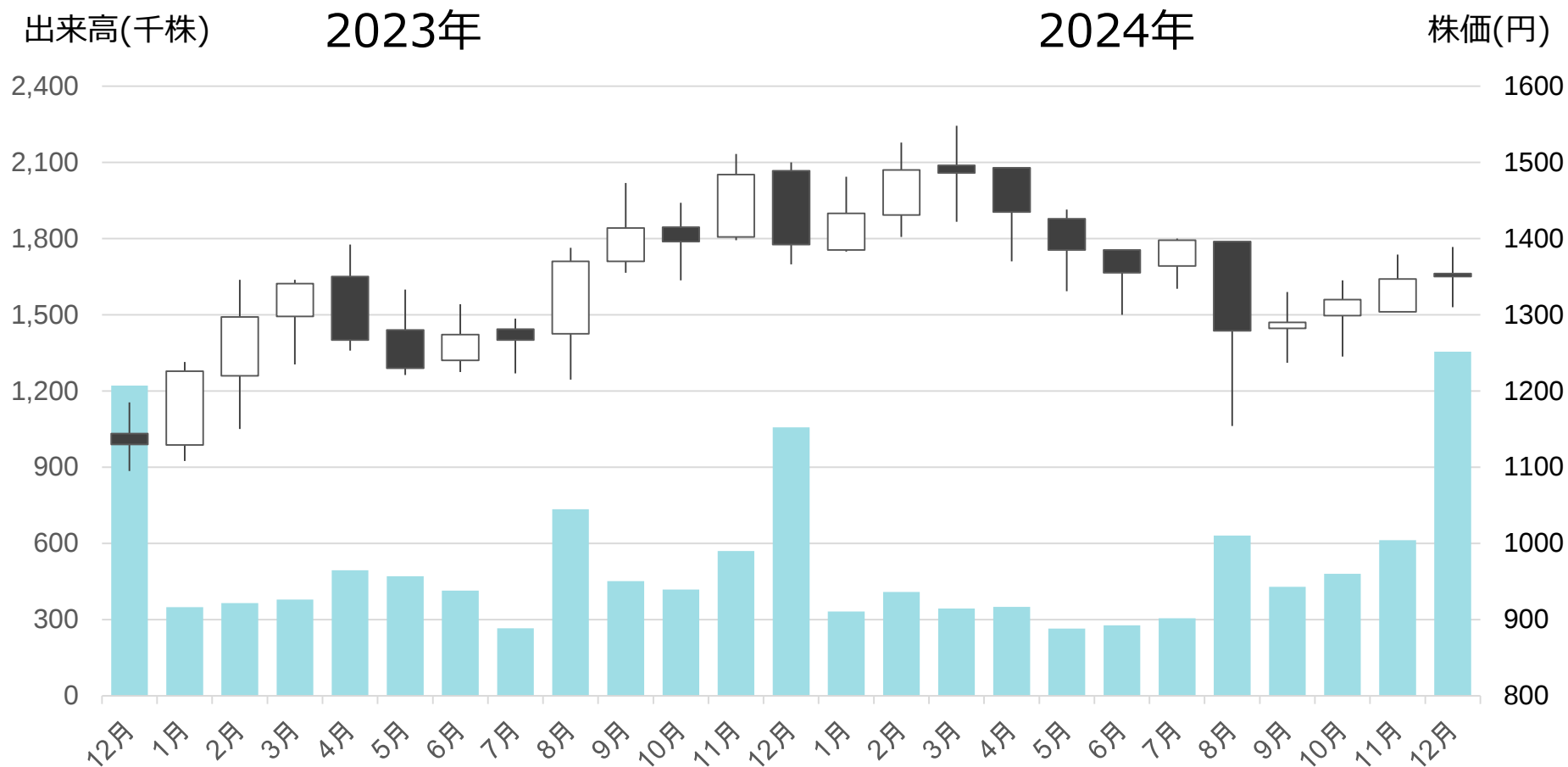
項目	指標 (前年差)	対策	状況・課題
収益性	売上高純利益率 6.8% (+0.2%)	・ 主力事業の強化	・ 売上計画が未達となるなか、費用統制を徹底したことで、利益計画を達成 ・ 既存事業領域の大きな成長が見込めずM&A等を活用した事業領域拡大が必要
資産効率性	総資産回転率 0.65回転 (△0.01回転)	・ 現預金の活用 ・ 保有資産の売却 ・ 棚卸資産の抑制	・ 製品の高付加価値化や将来的な事業展開に備えた設備投資に現預金を活用 ・ 稼働率の低い不動産や政策保有株式の売却を推進
財務健全性	財務レバレッジ 1.28倍 (△0.12倍)	・ 株主還元の強化 <累進配当> ・ 増配ペースの引上げ	・ 上場子会社の完全子会社化による自己資本増加により、指標が大きく低下 ・ 総還元性向 50%の実現に向け、増配ペースを引上げ (2024年：36.8%)

PER 9.1倍

《IR活動》

- ・ 開示資料の充実 (統合報告書 等)
- ・ 投資家との対話機会の拡充 (決算説明会、IRミーティング)

株価・出来高の推移



2022年11月
自己株式
取得の発表

2023年2月
中期経営計画
の発表

2023年8月
・自己株式取得の発表
・「資本コストや株価を意識した経営の実現
に向けた対応について」発表

2024年11月
配当予想
の修正

将来見通し等に関する注意事項

本資料における当社グループの今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。



Appendix

社名	立川ブラインド工業株式会社 証券コード7989
創業	1938(昭和13)年5月 ※1947(昭和22)年に株式会社改組
資本金	44億7,500万円
連結総資産	638億円
売上高	連結 414億円、単体 316億円 (2024年12月期)
従業員	連結 1,315人、単体 854人 (2024年12月末現在)
本社	東京都港区三田三丁目1番12号
事業	各種ブラインド／間仕切／ カーテンレールの製造・販売・設計施工 【営業拠点】全国 14支店 57営業所(出張所含む) 【製造拠点】2工場 3製作所 【ショールーム】10カ所 (海外1カ所含む) 【ディスプレイスペース】2カ所 【連結子会社】 8社



本社

支店・営業所 国内71カ所
ショールーム 国内11カ所
ディスプレイスペース

- 本社
- ★ ショールーム・ディスプレイスペース
- 支店
- 営業所
- ▲ 工場
- ▼ 製作所



2工場・3製作所



《主要拠点にショールーム
ディスプレイスペースを設置》

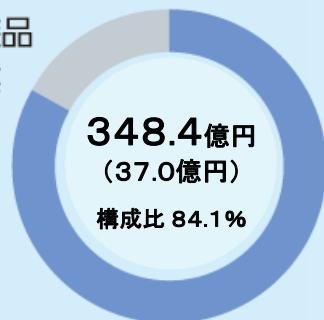
- 銀座ショールーム
- 札幌ショールーム
- 仙台ショールーム
- さいたまショールーム
- 横浜ショールーム
- 名古屋ショールーム
- 大阪ショールーム
- 広島ショールーム
- 福岡ショールーム
- 上海ショールーム ...海外(中国)
- 新潟ディスプレイスペース
- 金沢ディスプレイスペース

※2024年12月31日現在

売上高(営業利益)

2024年12月期

室内外装品
関連事業



事業概要

各種ブラインド、
可動式間仕切り等の製造
ならびに販売

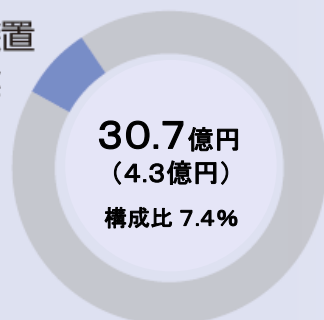
主な製品

- ブラインド
(ヨコ型・タテ型)
- ロールスクリーン
- 間仕切り
- カーテンレール



ヨコ型ブラインド「パーフェクトシルキー」

駐車場装置
関連事業



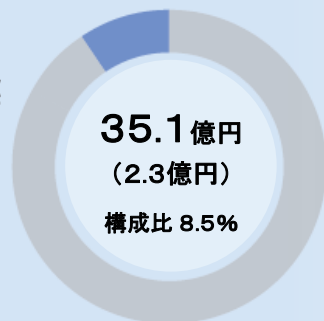
機械式立体駐車装置の
製造・販売ならびに保守点検

- エレベーター方式・
くし歯式立体駐車場
- 地下式駐車場
- 軽自動車用立体駐車場



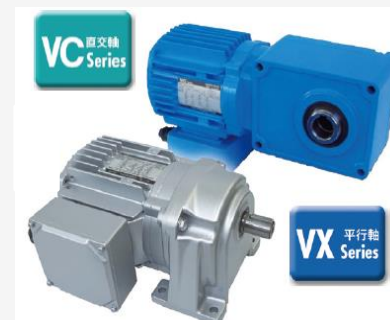
エレベーター方式・
くし歯式立体駐車場

減速機
関連事業



減速機類の製造ならびに
販売

- 汎用減速機
(ギヤードモータ)
- 特殊減速機
- シャッター駆動装置



汎用減速機
(ギヤードモータ)

用途は、「住宅向け」だけでなく、「オフィス向け」、「公共施設向け」など多様

光を演出する、
お部屋をコーディネートする。

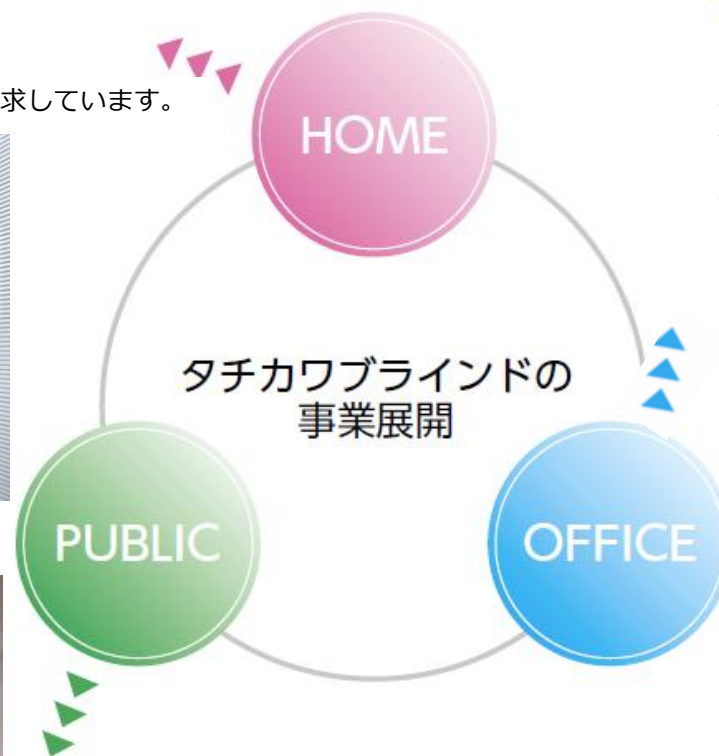
本当にリラックスでき、
快適さを実感できる空間とはなにか…。
私たちは、性能、素材、色彩など、
さまざまな視点からその本質をつねに追求しています。



パーフェクトシルキー〔リビング〕



プレイス〔医療・福祉施設〕



公共施設にふさわしい快適性を追求。

タチカワブラインドは、今までに庁舎、ホテル、学校、医療・福祉施設、スポーツ施設など、都市のシンボルとなる建築物をはじめとしたさまざまな公共施設に納入した確かな実績を誇ります。

高度化するビジネス空間を、
もっと快適に。

オフィスで働く人たちが
仕事に専念できる環境をつくるために。
優れた操作性や省エネ効果の高い
ブラインドなどを取り揃え、あらゆる
快適空間づくりの提案を行っています。



左：東京ミッドタウン八重洲
電動ヨコ型ブラインド「ローリー-ESSタコスⅡ」
電動ロールスクリーン

右：読売テレビ 新社屋
電動ヨコ型ブラインド「ローリー-ESS半外装タコスⅡ」
電動ロールスクリーン 他

豊富なバリエーションを取り揃え、快適な環境づくりに貢献

■ ヨコ型ブラインド

パーフェクトシルキー



遮蔽性・意匠性に優れた最上級のヨコ型ブラインド。スラットにコードを通す穴がなく、光漏れを低減。遮熱性にも優れています。

木製ブラインド

フォレティアエグゼ・フォレティア

天然木を使用した木製ブラインド。木目が美しく意匠性に優れています。フォレティアエグゼはスラットにコードを通す穴をなくし意匠性・遮蔽性に優れています。



■ ロールスクリーン

ラルクシールド



生地デザイン・カラー・機能性が豊富なロールスクリーン。生地を上下に昇降させることで採光を自由に調整。ワイドサッシから小窓まで幅広く対応します。

調光ロールスクリーン ルミエ

前後の2枚のレースの間にドレープ生地を配した立体構造の調光ロールスクリーン。わずかな操作で採光と眺望をコントロールできます。



■ タテ型ブラインド

ラインドレープ



スラットのデザイン・カラー・機能性が豊富な住宅向けのタテ型ブラインド。スラットの回転と左右の開閉ができ、腰高窓からワイドサッシまで幅広く対応します。

調光タテ型ブラインド エアレ

タテ型ブラインドのスタイリッシュさとカーテンのやさしい雰囲気を併せ持ち、採光と眺望を自由にコントロールできる調光タテ型ブラインド。U字状にウェーブした生地を傾けることによって採光状態、全閉状態を作り出します。



■ 間仕切り

プレイス



温かみを感じる木目調フレームが特長の間仕切り。シーンや用途に応じて選べる格納方式と出入りの方法をご用意しています。

プレイス スウィング

スリムなフレームのスタイリッシュなデザインが特長の間仕切り。軽快な操作感で開放的な空間づくりをサポートします。



■ プリーツスクリーン

ゼファー・フィュー・ペルレ

プリーツ状の生地を上下に開閉することで採光をコントロールするプリーツスクリーン。すっきりしたフォルムでワイドサッシから小窓まで幅広く対応。



■ カーテンレール

デザイン性・機能性・静音性に優れたカーテンレールやピクチャーレールなど、用途や部位に応じて選べる豊富なラインナップとカラーバリエーションをご用意。